

2022年5月期第2四半期 決算概況

証券コード： 3501
(東証一部上場)



目次

● 表紙	1
● 目次	2
● 2022年5月期第2四半期 (2021/6～2021/11) 連結業績	3
● インテリア事業	4
● 自動車・車両内装事業	7
● 機能資材事業	8
● 連結業績の事業セグメント別内訳	9
● 連結バランスシート	10
● 有利子負債	11
● 設備投資・減価償却費	12
● 2022年5月期 連結見通し	13
● 株主還元について	14
● 新市場区分について	15

2022年5月期第2四半期 (2021/6～2021/11) 連結業績

日本経済は、新型コロナウイルス デルタ株の感染症拡大が落ち着き、またワクチン接種の浸透などにより緩やかな回復傾向となった。世界経済においても、引き続き経済活動の再開に伴う景気回復の動きが見られた。しかし国内外において、新たな変異株の感染拡大、半導体・部品供給不足や原油高による原材料価格の高騰などの影響が懸念されている。

(単位：百万円)

	当第2四半期	前年同期	前年同期比増減 (率) (額)		業績予想 2021年10月15日開示	業績予想比増減 (率) (額)	
売上高	39,323	37,567	+4.7%	+1,756	39,707	△1.0%	△383
営業利益 (△損失)	△174	20	—	△195	△390	—	+215
営業利益率	—	0.1%			—		
経常利益 (△損失)	593	△5	—	+598	232	+155.7%	+361
経常利益率	1.5%	—			0.6%		
四半期純利益 (△損失)	48	△352	—	+401	△160	—	+208
四半期純利益率	0.1%	—			—		

為替レート
(USD/JPY)

当第2四半期

前年同期

110.13

106.33

※ 当資料の四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を表している。

インテリア事業

カーペットを中心にカーテン、壁紙等を販売

(単位：百万円)

	当第2四半期	前年同期	前年同期比 (率)	前年同期比 (額)
売上高	15,211	14,882	+2.2%	+329
営業利益	256	233	+9.9%	+23

■ 業務用カーペット [売上高 前年同期比△9.5%]

国内での水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」の販売が堅調に推移したものの、大型案件の減少によりロールカーペットが前年同期に届かなかった。

■ 家庭用カーペット [売上高 前年同期比△12.2%]

前年同期は外出自粛によりウェブ向け販売が伸長し、ホームセンターなどの店舗販売も好調となっていたものの、当第2四半期は需要が一巡。

■ カーテン [売上高 前年同期比△9.6%]

一般家庭向けおよび医療・福祉・教育施設向けともに伸び悩んだ。

■ スペース デザイン ビジネス [売上高 前年同期比増加]

2020年9月より連結対象となった株式会社シーピーオーの売上が寄与。

■ 壁装関連 [売上高 前年同期比+3.2%]

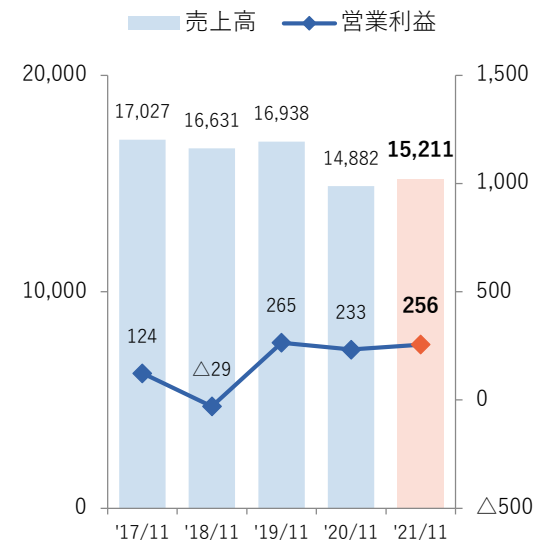
襖紙が伸び悩んだものの、6月に壁紙「ルノン マークII」を新発売し、また一部商材の価格改定の効果があった。

新設住宅着工戸数（住宅分野）

→ 前年同期比+7.2%

着工床面積（非住宅分野）

→ 前年同期比+12.1%



インテリア事業 — TOPIC

水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」

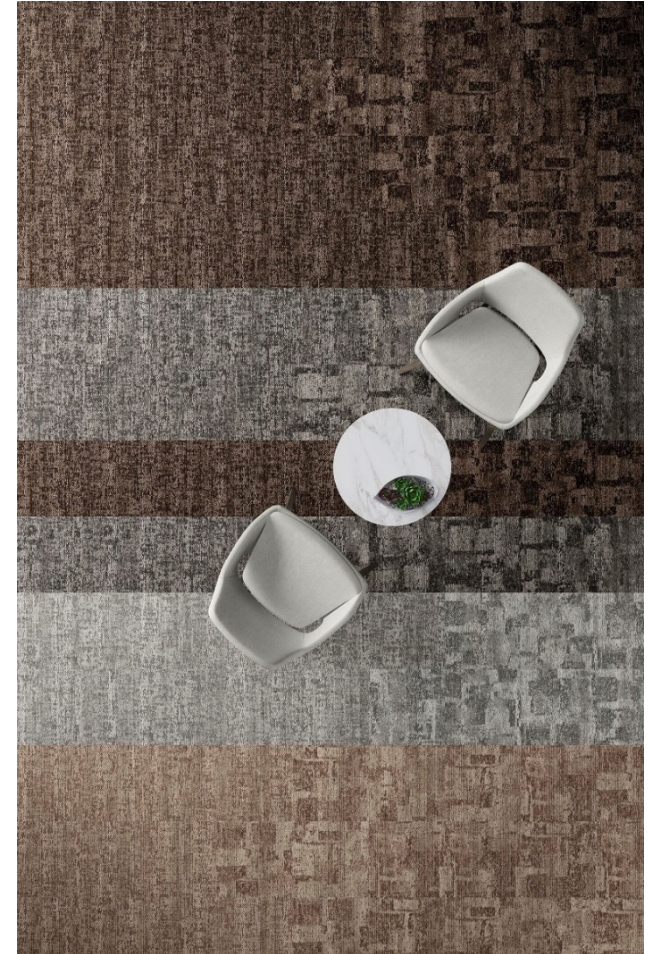
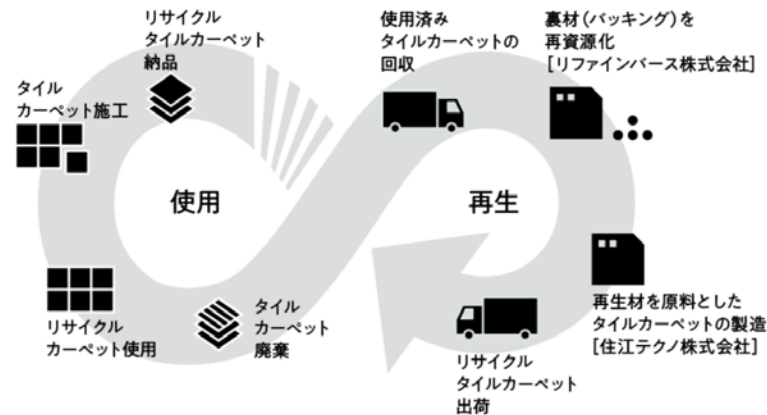
水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」は、裏材に使用済みタイルカーペットの再生パウダーを使用した環境対応型商材。

《特長》

- ✓ 業界トップクラスの再生材比率 84%*を達成
- ✓ CO2 排出削減貢献量は 40%*を達成
- ✓ 再生材の原料を日本製タイルカーペットに限定
- ✓ バージン品と変わらないコストパフォーマンスを実現
- ✓ 全シリーズがグリーン購入法適合品・エコマーク認定品

*ECOS iD-8100 の場合

《ECOS®バックング材 マテリアルリサイクル図》



インテリア事業 — TOPIC

水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」

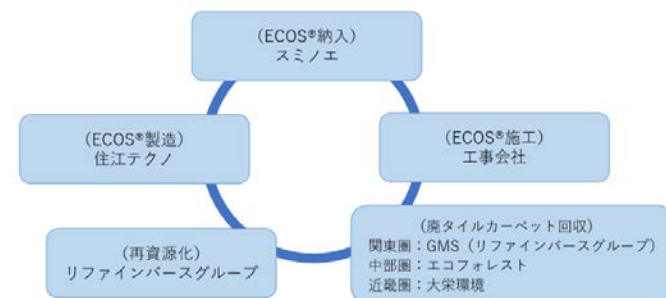
《TOPIC》

1. 『第4回エコプロアワード』 経済産業大臣賞
『第22回グリーン購入大賞』 プラスチック資源循環特別部門 大賞 をW受賞



2. 使用済みタイルカーペット回収に関する協業の開始

これまで使用済みタイルカーペットの回収は関東圏に限られていたが、株式会社スミノエが受注し「ECOS®」を販売・納入するリニューアル工事において、廃棄されるタイルカーペット（日本製に限定）の回収を、中部圏は株式会社エコフォレスト、近畿圏は大栄環境株式会社と協業して行うこととなった。



3. 環境対応型の床材を拡充

「AVANCERA FLOOR（アヴァンセラ フロア）置敷きビニル床タイル」

2021年12月、特殊UVコーティングによる初期ワックスが不要の、学校やオフィス向け硬質床材を新発売。ECOS®リサイクルパウダーを利用することで、業界トップレベルとなる約53%（製品重量比）の再生材使用率を実現している。

表面がパイルの50cm角タイルカーペットとの組み合わせが可能で、様々な空間ニーズやコーディネート提案に対応。



自動車・車両内装事業

(単位：百万円)

	当第2四半期	前年同期	前年同期比 (率)	前年同期比 (額)
売上高	21,595	20,406	+5.8%	+1,189
営業利益	445	546	△18.5%	△101

自動車内装事業

フロアカーペット、シート地、天井表皮材等、自動車内装材をトータルで販売

■ 国内 [売上高 前年同期比△7.9%]

第1四半期は新型コロナウイルス感染症拡大による生産縮小から回復が見られたが、当第2四半期では半導体や部品供給不足による減産の影響があった。

■ 海外 [売上高 前年同期比+24.1%]

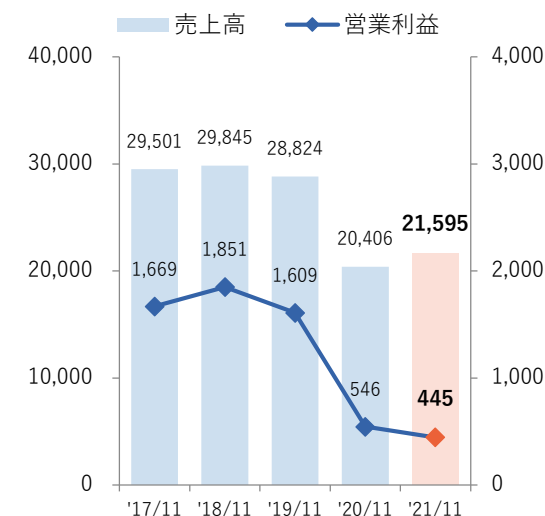
前年同期と比較してインドネシアにおいて自動車購入時の減税の影響などから自動車販売が伸長し、タイでも回復が見られた。また、北中米においても堅調に売上を伸ばした。

国内市場の自動車生産台数
→ 前年同期比△15.3%
海外市場は生産・販売が増加し、
前年同期を上回った。

車両内装事業

鉄道・バス等にシート地やカーペット、シートクッション材「スキューブ®」等を販売

新型コロナウイルス感染者数の減少により、鉄道やバスを利用する国内旅行者および通勤客は増加傾向にあるが、内装材需要の回復までには至っておらず、車両関連全体での売上は前年同期を下回った。



機能資材事業

機能性資材、ホットカーペット、独自消臭加工技術によるフィルター等の販売等、新たな分野で事業を展開

(単位：百万円)

	当第2四半期	前年同期	前年同期比	
			(率)	(額)
売上高	2,354	2,067	+13.9%	+286
営業利益	20	52	△61.4%	△32

■ ホットカーペット

2020年5月期の暖冬の影響が解消したことから受注が伸長。

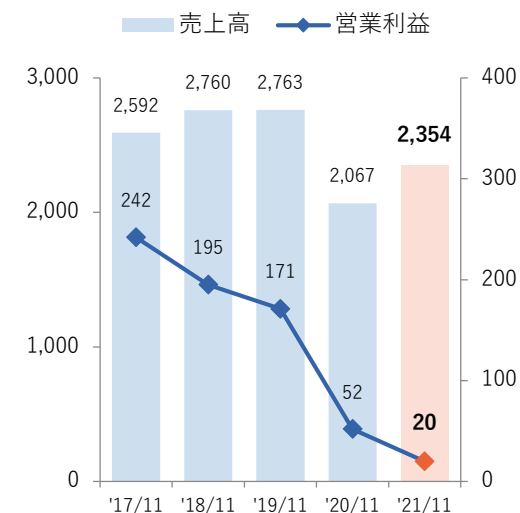
■ 浴室床材

受注が好調に推移。

■ 空気清浄機向け消臭フィルター

前期の新型コロナウイルス感染症拡大による特需の反動減があった。

中国からベトナムへの繊維系電気暖房商材の生産移管を進めていることから販管費が増加し、利益を圧迫している。



連結業績の事業セグメント別内訳

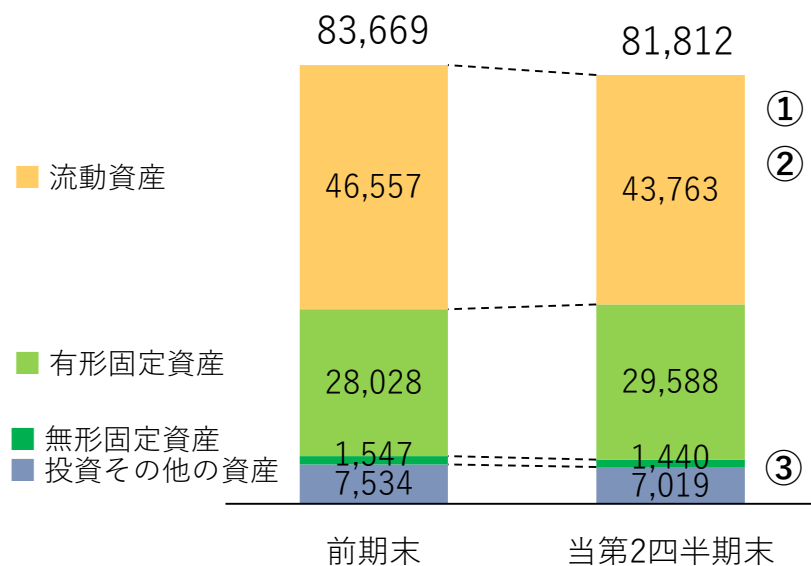
(単位：百万円)

売上高		当第2四半期	前年同期	前年同期比増減	
				(率)	(額)
	インテリア	15,211	14,882	+2.2%	+329
	自動車・車両内装	21,595	20,406	+5.8%	+1,189
	機能資材	2,354	2,067	+13.9%	+286
	その他	161	210	△23.4%	△49
	合計	39,323	37,567	+4.7%	+1,756

営業利益		当第2四半期	前年同期	前年同期比増減	
				(率)	(額)
	インテリア	256	233	+9.9%	+23
	自動車・車両内装	445	546	△18.5%	△101
	機能資材	20	52	△61.4%	△32
	その他	22	37	△40.5%	△15
	調整額	△919	△850	-	△69
	合計	△174	20	-	△195

連結バランスシート

< 資産 >



① 現預金

前期末比△4,472百万円の6,463百万円となった

② 棚卸資産

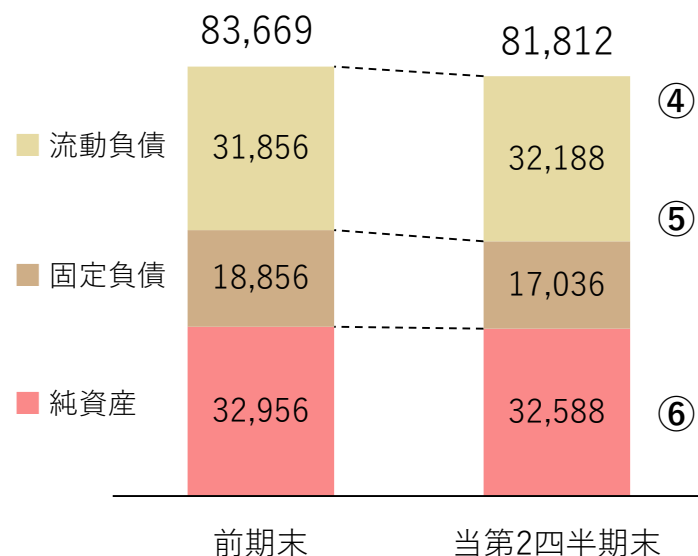
前期末比+972百万円の13,834百万円となった

③ 投資有価証券

前期末比△609百万円の4,306百万円となった

< 負債・純資産 >

(単位：百万円)



④ 仕入債務 (支払手形及び買掛金・電子記録債務)

前期末比△723百万円の15,517百万円となった

⑤ 有利子負債 (短期・長期・社債)

前期末比△741百万円の17,948百万円となった

⑥ 利益剰余金

前期末比△77百万円の10,594百万円となった

有利子負債

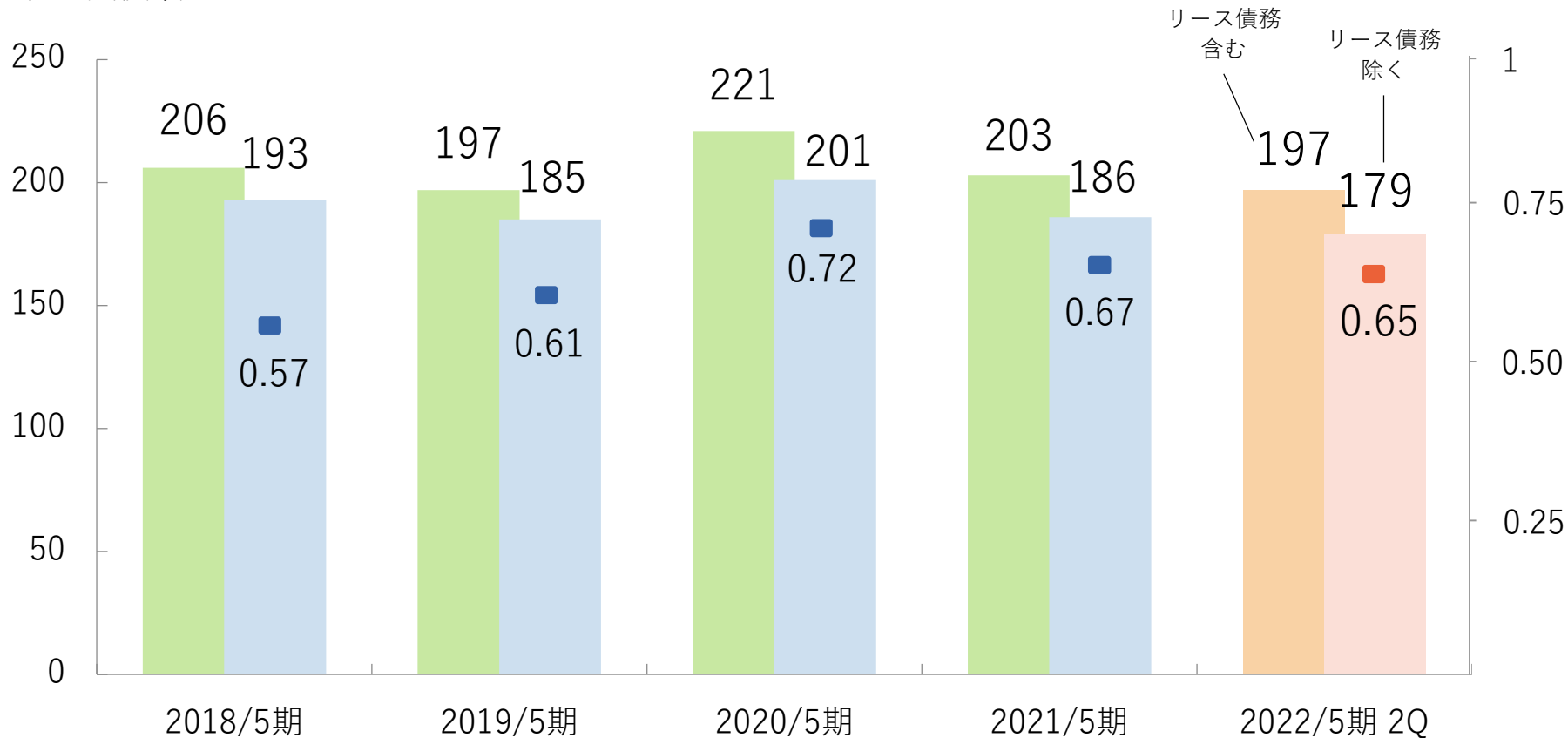
■ リース債務含む ■ リース債務除く ■ DEレシオ

(単位：億円)

有利子負債額

(単位：倍)

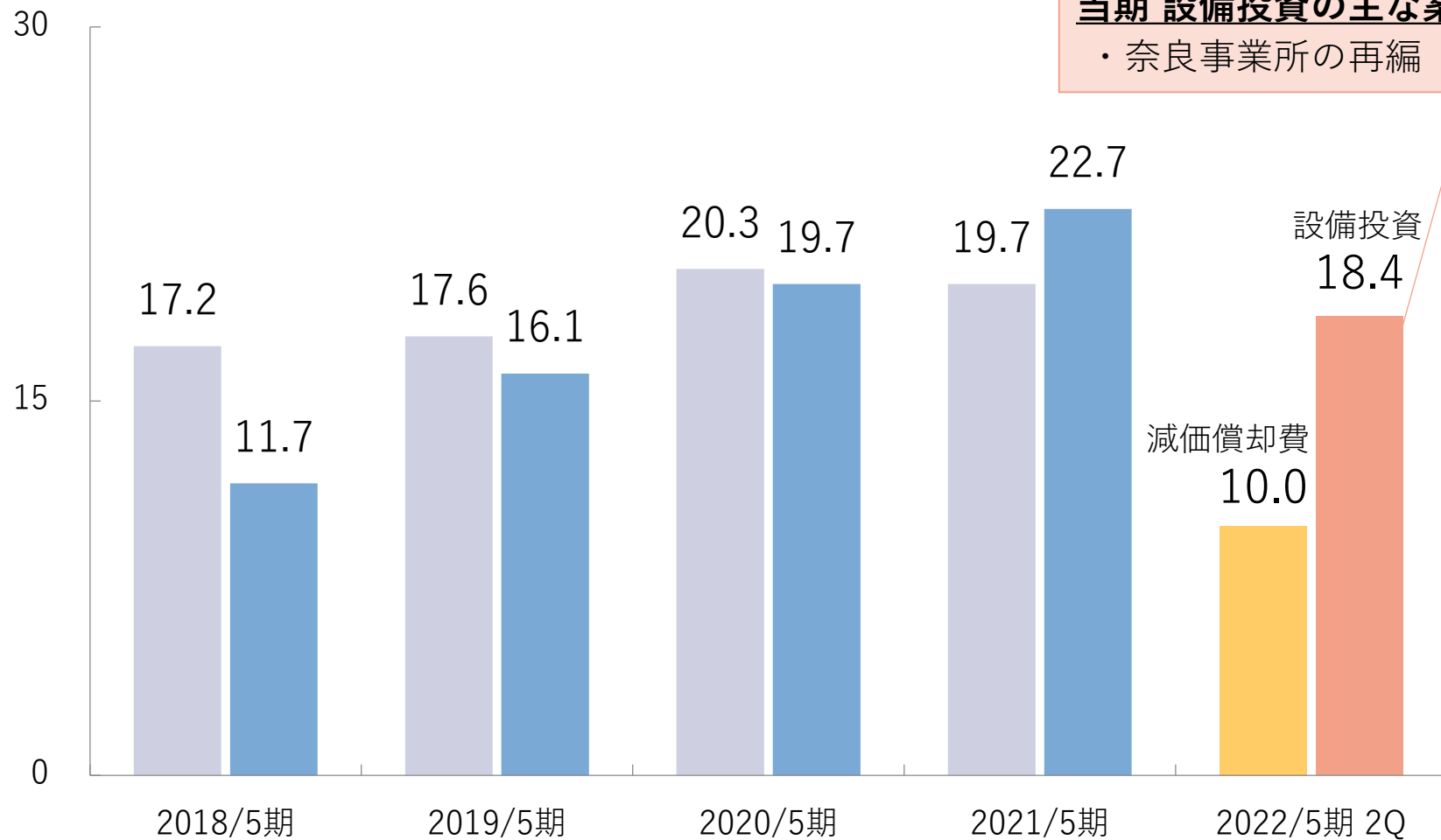
DEレシオ



※DEレシオ… $\frac{\text{有利子負債（リース債務除く）}}{\text{純資産（非支配株主持分除く）}}$

設備投資・減価償却費

(単位：億円) ■ 減価償却費 ■ 設備投資



2022年5月期 連結見通し

売上高 **839億円**

(2021年5月期 797億2百万円)

営業利益 **4億2百万円**

(〃 10億49百万円)

経常利益 **11億2百万円**

(〃 12億11百万円)

親会社株主に帰属する

当期純利益 **5億26百万円**

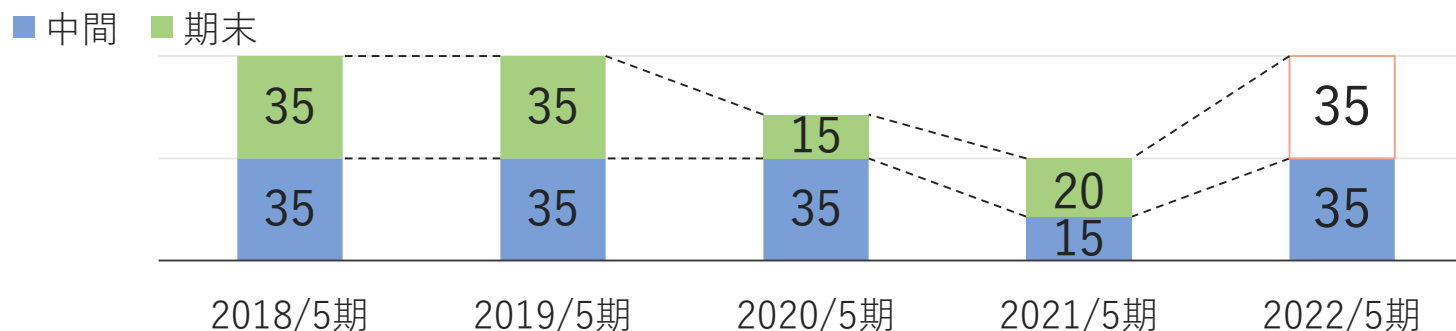
(〃 4億9百万円)

連結業績予想は、
2021年10月15日に
開示した値から変更なし。

株主還元について

■ 配当金について

2022年5月期中間の配当金は、1株あたり35円。
期末配当金も35円で、年間で70円とさせていただきます予定。



■ 株主優待制度の導入

株主様へ日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの方々に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的に、株主優待制度の導入について決議。2022年5月末日現在の株主様を対象に開始。

保有株式数（基準日時点）	優待内容
100株以上～200株未満	自社商品 700円相当
200株以上～1,000株未満	オリジナルカタログギフト 4,000円相当
1,000株以上	オリジナルカタログギフト 10,000円相当

新市場区分について

■ プライム市場上場を選択した理由

- 持続的に企業価値を高めていくために、プライム市場の基準を達成、維持することが必須であると考えたため。
- より優秀な人材を集めるため。

■ 今後の取り組み

(1) 基本方針

これまで当社グループが取り組んできた ESG 経営のもと、社会のニーズに応える商材の拡販とグローバル経営を推進することで企業価値を高めるとともに、株式施策および IR 活動の強化に取り組むことで、プライム市場上場維持基準への適合を目指す。

(2) 取り組み内容

- ✓ 既存事業の強化および積極的な設備投資・M&Aによる企業価値の向上
 - ✓ 積極的な IR活動による投資家とのコミュニケーション強化
 - ✓ 開示資料の充実
 - ✓ コーポレートガバナンスの充実
 - ✓ 株式施策による流通株式数の増加
- 等



住江織物株式会社

当資料の将来見通しに関するリスク情報

当資料における当社の今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。